

‘69.11 以降 いかで何が起り、助手共斗はどう対応したか。

‘70.1.16. 助手共斗

11. 8 (土) 明大教職員集会 (大学当局側)
会を正門で入る学生に對する教職員の懲戒の権限と「正門へはいつまでも不得だ」ということを主張し
つづつ、公開の要請書は提出され、當時の問題は提出された。
11. 10 (日) 状勢は公開の要請書は提出され、當時の問題は提出された。
11. 12 (木) 働き手の解答をもとにした公開の要請書は提出され、當時の問題は提出された。
11. 14 (金) 全部助手共斗討論集会 (約40名) が開催された。この日は明大の脱帽を行った。
11. 16 (日) 佐藤訪問阻止決起集会 (蒲田周辺) 戦闘的野次馬集団として参加、全部助手共斗と行動を共にする。
11. 18 (火) 工学部永倉・浜本両教授が助手共斗本部へ、1. 授業再開にたいて、2. 学生の自決権 (方向性) についての意見を述べた。
11. 21 (金) 全明集会へ
11. 24 (月) 「学園叛乱」の原因と問題の本質を明かにするため、助手共斗が一方的作爲的宣伝 (資料) しか知らない
11. 26 (水) 生田地高委員会にて抗議拒否文、農工実験助手21名、連行で学長、
11. 28 (金) 三年生内閣解説会提出。
12. 1 (月) 対象者登録会が何の抵抗もなく開催され、研究とは、の否定され
12. 4 (火) 組合批判は現在の業務人間関係を主張するが、これまでの主張をもとに討論。
12. 5 (金) 工学部教職員会に出席し、工学部教職員会に出席。
12. 6 (土) 反対派はこのままでは労働者を困らせるだけである。
12. 8 (日) 本日の生田が、ますや助手共斗に参拝。
12. 13 (土) 豊島区教職員会検査会に出席。
12. 15 (月) 豊島区教職員会検査会に出席。
12. 17 (水) 全明政事会開催 (和泉館)、助手共斗各個人が講師と争って「学園叛乱の原点」を中心とした講演。
12. 19 (金) 改良運動目標と自主セミナーの方向性と全明運動小創出に検討。
12. 20 12. 5 (月) 運動目標と自主セミナーの方向性と全明運動小創出に検討。
12. 13 (火) 事務担当に就活。
12. 14 (水) 助手共斗徹底討論会 於本部